

## 「茶道」と「出会い」

東京都立神代高等学校3年（東京都）

### 安齊 ゆりあ

高校1年生のある暑い夏の日、私は茶道に出会いました。先輩からのお誘いをきっかけに参加した茶道部のお稽古でのことです。この時初めて水とお湯では流れる音が異なることに気が付きました。あの日の、まるで新しい世界が開いていくかのような高揚感は今でも覚えています。礼一つとっても複雑で作法は見かけよりもずっと難しい。ただ動きを真似てみても、美しく見せることはそう簡単ではありません。茶道においてはすべてのことが意味を持っています。茶筌を茶筌直しで保管するのには、良い形を保ちお茶を点てやすくするという意味があり、そこにはおいしいお茶をお客様にお出しするために、という気持ちが込められています。他のこともすべて、お客様においしいお茶をさしあげたいという一心からくるのだと私は思います。何て素敵なお稽古なのだろうかと感銘を受けました。それからというもの、私はどんどん茶道に夢中になり、月に2回のお稽古を楽しみに学校生活を送っていきました。とにかく教えていただくことすべてが新鮮で、広がっていく知らなかった世界に胸を高鳴らせました。

そして私は2年生になり、茶道部の部長を務めました。部活動の宣伝や活動日の調整、文化祭企画の作成など、部員が少なかったこともあり仕事はたくさんでしたが全く苦ではありませんでした。むしろ茶道部のために力を尽くせたことは幸せです。この年はコロナが落ち着き、新たに和室で活動できるようになり、学校関係者の皆さんにお茶をお出しできる機会に恵まれました。部員にとっては初めてのことで緊張の中お点前を見ていただき、呈茶をしました。お茶を召し上がったお客様の、おいしいと微笑んでくださった表情は今でも忘れられません。お客様にお茶を点てられること、お茶を召し上がっていただけることのありがたみを感じることができた大切な思い出です。

現在、3年生となった私は茶道、そして茶道部を通じて出会うことのできた方々、感じることのできた幸せへの感謝の気持ちをひしひしと噛み締めています。優しく、時に厳しくかつ丁寧にご指導してくださる先生。作法、茶の湯の精神、礼節、お道具の扱いまですべてを教えてくださいました。そしてそれらは茶道だけでなく私たちの生活にも生きています。私たちのことを思い動いてくださる顧問の先生。ご相談させていただくことが多くありましたが、いつも助けていただきました。共にお稽古に励んだ部員のみならず、どんな時も協力し合い、お稽古での学びを、お茶のおいしさを分かち合った仲間との絆は一生ものです。それだけではありません。先生にお招きいただいたお茶会では、たくさんの素敵なお茶人の方々との出会いがありました。皆さんとても親切で、私が困っているとそっと助けてくださいました。そしてその場の誰もが、お茶、お茶会、お茶会でのご縁を楽しんでいたのです。お茶会だからこそ感じられるお茶の世界の素晴らしさを再認識することができた貴重な経験です。また、青年部のお手伝いとして参加させていただいた大宮八幡宮献茶式では、鵬雲斎大宗匠様にお声がけいただくことが叶いました。またまだ未熟な私が鵬雲斎大宗匠様に「頑張れよ」と激励していただけた

のは、学生としてあの場にいられたからこそです。そして、お手伝いとして参加させていただけたことで、水屋側の世界についても知ることができました。お茶を楽しんでいただくための代々受け継がれてきた工夫には感服しました。

私は学校茶道として茶道を始められたことでたくさんしたこと、もの、人と会うことができました。そのすべてが私の人生を豊かに彩っています。とはいえ私の茶道人生はまだほんの入り口です。これからのすべての出会いが楽しみでなりません。